

平成30年度 東村山市立青葉小学校 第2回学校運営協議会評価報告書

**学校教育目標** 人間尊重の精神を基調とし、知・徳・体の調和のとれた、心身ともに健康で、こころ豊かに未来を生きる児童の育成を目指し、以下の教育目標を掲げる。  
 ◎進んで学ぶ子(今年度の重点目標) ○豊かにかかわる子 ○じょうぶな体をつくる子 ○いのち・人権を大切にす子

**目指す学校像(ビジョン)**  
 【目指す学校像】『夢をはぐくみ、子供が主役の楽しい学校』 『保護者、地域の方々と協力し信託に応える学校』  
 【目指す児童像】「返事、あいさつ、後始末」「安心・安全、守るルール」を実現し、「笑顔で、明るく、元気よく」学校生活をおくる児童  
 【目指す教師像】「使命感と豊かな人間性・教養」をもち、「子供に対する深い愛情」をもとに、組織として学校教育を推進する教師

**前年度までの学校経営上の成果と課題**  
 <成果> 伝え合い、学び合える子をめざし、全教員が日々の授業において実践的・体験的な活動を行い、話し合いや発表、レポート・新聞づくりなどの方法を丁寧に指導し、読み書きの活動に進んで取り組む態度を育てることができた。  
 <課題> 教育目標「進んで学ぶ子」を重点とし、新学習指導要領の全面实施を視野に、基礎・基本の習得と思考力の向上のため、個に応じた指導の工夫と指導過程の改善を図る。

	具体的方策	第1回評価		第2回評価		課題と対策	第2回学校運営協議会評価
		努力目標	成果目標	努力目標	成果目標		
学力向上	① 日々の授業のなかで、進んで学ぶための伝え合いや学び合いの場を設定し、言語活動の充実を図る。	3	3			○全教員が1年間を通して、「進んで学ぶ子の育成」の達成のために個人課題を設定し取り組んできた。進んで学習に取り組む姿が増え、意図的に計画した学習の様々な場面で、言語活動の充実につなげることができた。	・授業スタイルの工夫やねらいを明確化することによって積極的に児童が学習に参加しているように見えました。 ・学校公開や授業参観でしか情報がありませんが、子供たちが一年間を振り返られる発表などから、まとめる力や発言する力が身に付いていることが伝わってきました。今後も保護者が参観できる場面での子供たちの発表や学力の成果を見せていただけたらと思っています。 ・①第三者の私達では見えない部分、先生と保護者の関係の良さが各学年アンケートの内容に出ている。先生の努力がうかがえる。②保護者の言葉に1～3年生「学校が楽しい」との評価、4～6年にも同じ評価があることは、一貫した教育の効果が表れており素晴らしい事と思います。先生と子供たちのコミュニケーションがなされている事と思います。(努力に感謝) ③体験学習の効果。子供たちは学校で楽しかった事を親に話す率が高いと思います。その点からも、①②と合わせ勉強への意識の高まりに繋がっていると考えられます。 ・課題と対策が、保護者に伝わり子供たちの意欲に繋がっていると思います。 ・児童が自己評価を行い、現状を認識するというは大変良いことと思います。
	② すべての授業において、具体的なめあての提示とめあてに対応した自己評価及び教師による肯定的な評価を行う。	3	4			○具体的な方策の内容を授業づくりの基本に置き、教員相互に確認しあってきた。1年間を通して、学習カードを利用して自己評価を行ったり、本時のまとめとして児童の発表や記述を使ったまとめをしたりすることを継続してきた。	
健全育成	① 年間を通して、ノーチャイム、廊下歩行、返事・挨拶・後始末の徹底を学校生活の重点目標とする。年3回、学校生活に関わる調査を実施する。	—	4			○年3回の学校生活に関わる調査を実施し、児童の自己評価につなげることができた。保護者アンケートからは、あいさつと言葉遣いが課題としてあげるのが1～1.5割いた。今後も返事・挨拶・後始末についても常に意識させ、身に付けさせるための指導を継続していく。	・低学年の返事、あいさつはとでもすばらしいと思います。学年が上がるごとに恥ずかしいことだと感じているのか、自主的には少ないのですが、大人が率先して行えば返ってくると思うので、保護者の方々にも気にかけていただきたいです。 ・縦割り活動の良い影響は幼稚園・保育園との交流会にも現れており、園児が児童を慕っています。 ・たて割り班の活動はとでもすばらしいと思います。今後も取り組んでいただきたいです。学校外でも、子供同士で声を掛け合っています。 ・上級生のリーダーシップを育てる意味で、「タテ割り授業」「展覧会」等での交流の効果は土曜教室でもうかがえる。 ・挨拶、言葉使いは学校、家庭と使い分けるのが子供であり、私が小学校と携わらせていただいた初期のころと比べれば、数段良くなっていると思います。ただ、「あいさつ運動」は継続していく事が大切(先生だけでなく、親も、地域の私達も)。 ・内容について異論はありません。 ・リーダーシップの発揮は土曜日でも教室でも高学年が率先してまとめているのが見受けられます。このまま上手に継続していくことをお願いします。
	② 青葉タイムやたて割り班活動で、児童が適切なリーダーシップが発揮できるように指導を行い、異学年で仲よく遊ばせる。	4	4			○1年間を通して活動することができた。上学年児童は、リーダーシップを発揮してまとめている。保護者アンケートには、「子供が、自主的、自発的な行動をするようになった。」「責任感や協力し合うことを身に付けた。」という意見もある。来年度も同様な計画を立て、継続して取り組んでいく。	

	具体的方策	第1回評価		課題と対策	第2回評価		課題と対策	第2回学校運営協議会評価	
		努力目標	成果目標		努力目標	成果目標			
健康・体力づくり	① 運動の楽しさにふれさせる指導を工夫すると共に、「青葉タイム」や休み時間の外遊びを奨励し、教師も共に遊ぶようにする。	4	4	○体育科の授業において運動の楽しさにふれさせるために、運動内容やルールを工夫した授業を展開している。学習カードを使ったり、運動の仕方が視覚的に分かるような掲示物を提示したりして、楽しさにふれるだけでなく技能や体力の向上にもつなげている。	4	4	○7人制ラグビーのオリンピック選手を招き、講話を聞き、実技指導を受けることができた。運動に対する意欲と技術の向上につながった。さらに、アルティメット日本代表の監督と選手に計4回来校していただいた。3年生から5年生までの全クラスに、基礎的な動きからゲームの楽しさまで様々な指導を受けることができたので、その後の体育の授業にも取り入れた。休み時間にもアルティメットを楽しむ姿があった。来年度も、可能な範囲で一流スポーツ選手とのふれあいができるように計画し、運動好きを増やしたり体力向上を目指したりしていく。	・体育指導について、以前から思っていることがあります。専門分野はぜひ、体育講師を配属してほしいです。体験談等、子供たちはとても興味を示していました。 ・一流スポーツ選手との触れ合いは、子供たちの大きな財産。身体を鍛えることの大切さが一番感じるのではないかと思います。その点、毎年新競技を授業に取り入れている事は、素晴らしい事だと思います。学校の姿勢が、保護者に受け入れられ、「学力向上」「健全育成」に繋がっていると思います。 ・アルティメットを取り入れた意向がとても良いと思いました。 ・子供たちは、給食がとても楽しみです。栄養士さんや学校給食担当教員の方々の、美味しい楽しいメニューのおかげです。今後よろしくお願ひします。親子料理教室はいつも楽しみにしています。 ・児童の関心・好き嫌いを把握しつつ、創造的で栄養バランスのある多様なメニューを用意しているように感じます。 ・給食は良く考えられて作られていると感じました。食育は児童だけでなく、保護者を含めた教育が必要だと思います。PTAなどの協力のもと、うまく保護者を引き込めると良いと考えます。	・2020年のオリンピック・パラリンピックを子供たちがどう考え、感じているか知りたい。大いに興味を持ってもらう意味でも。 ・体育の時間が減っている中ででの運動についての教育は難しいと思いますが、小学校レベル(指導要領)では楽しく体を動かさせれば良いということでしょうか。 前にも申しましたが、体は大きくなっているのに力が出せませんが体の使い方が判らず、ケガをする児童が多くなっています。(体のバランスが悪くなってきている)人体の基本動作(体の使い方)を中心に、ケガをしない運動方法の習得が大事かと思ひます。
	② 食に関する指導の全体計画を基に、食育に関する指導を計画的に進める。	4	4	○栄養士と学校給食担当教員が中心となり、食に関する計画を作成している。具体的な取組として、バイキング給食の実施、給食だよりの発行、給食集会(10月に予定)として体育館等を利用した給食委員会の発表の場の設定、育てた野菜を使ったり、給食の食材の下準備をしたりして、身近な食べ物を通して食育の授業を行うなど、食に関する意識を高めていく取組を続けている。	4	4	○年間を通して、栄養士と学校給食担当教員が中心となり、食に関する指導を行うことができた。地元のもの積極的に取り入れた給食を提供したり、親子料理教室も実施した。更に卒業前の6年生が考えた給食メニューも取り入れ、全校に向けて食に関する興味関心の向上に努めることができた。来年度も同様の取組を継続していく。		
保護者・地域との連携	① 学校運営協議会を年間6回開催するとともに、学校ホームページで、毎月の教育活動報告を画像で周知する。	4	3	○学校運営協議会を年6回予定し、現在までに3回実施した。本校の今年度の取組や年間予定の確認、協議委員と教職員との懇談会などを行った。今後は、学校評価の報告とそれに対する意見交換会を協議会の中で行う予定である。学校ホームページの更新は、毎月行っている。	4	4	○学校運営協議会を年6回実施することができた。その内容については、来年度も検討していくが、市型コミュニティスクールのモデルとして示すことができる。学校便りやホームページ、掲示板等で、毎月の活動報告を画像を含めながら行うことができた。	・学校の様子が、校長先生の写真や便りなどで伝わっています。特に、学校運営協議会の一員になったことで、青葉小学校に対して先生や児童たちについて考えることが多くなり、より良くなってほしい希望が大きくなりました。 ・学校運営協議会の複数の委員が多角度で児童を支援する意向を積極的に活発に示しており、とても良いと思います。 ・保護者向けの学校アンケートでは、学年が上がるにつれて要望が減っているので、以前より改善されている点が多いのだと思います。様々な保護者がおられ繊細な感覚が求められる中でより良い教育活動を目指しておられることに感謝致します。 ・見守りの方への感謝の言葉が多く、嬉しく思いました。 ・低年齢化してきた問題を学校側が取り上げ、講演してくれること、とてもすばらしいと思います。更に、家庭が講演会をきっかけに意識が高まるとういのですが…(子供から大人に呼びかける)。 ・SNSは保護者も使っているので児童も使うことに抵抗はないと思います。要は使い方の分別がつかないことになると思ひますので、保護者を含めた授業は大変良いと思います。	・アンケートの回収率が分かりませんが、保護者の考え方、見方を知るには回収率を高め幅広い意見を集めることが大切と思ひます。 ・この関係は、お互いに感謝の気持ちを持たないと連携を保つのは難しいと思ひます。土曜子ども教室、学校・町の運動会、お祭りなどで地域とつながれば、うまく回ると思ひます。
	② 情報のICT化に伴う危険性や問題点について、外部の専門家を講師とする講演会を実施し、保護者の意識の啓発を図る。	2	4	○情報のICT化に伴う危険性や問題点についての課題意識を高める。具体的な取組として、3年生と6年生に対して、NTT東日本の方に依頼して「ネット安全教室」で指導していただいた。また、その日に合わせて保護者向けの安全教室も行っていた。保護者の参加者数を増やすことが今後の課題である。	4	4	○2月の学校公開日に合わせて、4年生でLINEに関連するトラブルを回避するためのワークショップ形式の学習を行った。授業参観の形だったので、保護者への意識の啓発にもつながったと考えている。来年度も計画し、実施する。		
特色ある学校づくり	① 年間計画を作成し、各学年で多磨全生園での教育活動を実践する。	1	3	○1学期に、5年生が多磨全生園についての学習を通して、「いのち・人権」教育の研究授業を行った。他学年でも、全生園をテーマとした写生に取り組んだり、全生園の中にはどのような建物があるのかを調べたりして、教育活動につなげている。今後に活用予定の学年があるので、努力目標の数値は1となっている。	2	4	○それぞれの学年において、年間指導計画に沿って、新しい取組も加えながら多磨全生園を積極的に活用した。低学年では敷地内の自然と触れ合いを中心に、中学年では施設の建物について学び、高学年では人権尊重教育を目標に取り組んできた。改善するべき点を検討しながら来年度も計画し、「いのち・人権を大切にする子」の育成のため、全生園等の地域の教育環境の有効活用を図っていく。	・青葉小学校での多磨全生園への取組はとてもすばらしいと思ひます。今後も低学年から高学年と、各学年で方法は違っても最終的にはつながる教育をしていただけたらと思ひます。 ・社会科見学会を地域と連携をとったり、地域の保育園・幼稚園との交流を図ったりと、とてもよい経験だったと思ひます。他の小学校との関わりなども見てみたいですね。 ・体験学習は保護者が高い評価をしている。(やりすぎると授業の遅れが生じ難しいと思ひますが…)。子供たちの成長過程で重要な事とおもひます。 ・新しい事に興味を持つ子供の心理、考え方、コミュニケーション能力の育成に、又社会の仕組みを実体験することは、教科書にない部分で、勉強を楽しむ学習効果は大きいと思ひます。 ・学校ではいろんな体験を通して現実的な実感としての学びは良いことと思ひます。 ・小学校に携わせていただいている一人として、授業以外での子供たちの行動、考え方を見守り少しでも情報提供できればと思ひています。 ・自分が支えられ生かされていることを様々な形で感じられたら他の人も大切にできると思ひので、今後もそのような取り組みがあるといいな、と思ひます。 ・幼稚園との交流会では、園児が児童をよく慕って楽しんでくれました。	・国際交流は言語、肌の色、価値観、考え方などで、コミュニケーション能力や物の見方など得ることが多いと思ひます。また差別やいじめなどを考えるのには良い教材となります。いつも申ししていますが、いま社会では「人権」というよりはもっと広い意味での「ダイバーシティ」(多様性)を中心に物事を考えるようになっていきます。この考え方は教育として突き詰めるというより、先生・児童の考え方の材料にして欲しいと思ひます。 ・保護者アンケートの回答率89%は素晴らしいと思ひます。(昨年より下がったのはやや残念)このことは、青葉小が落ち着いた雰囲気の中で、保護者も学校の運営方針について関心が高いことがうかがえます。また、少数意見とはいえ、家庭教育の範疇では?と思える意見があるの、残念に思ひます。
	② 学校内、学校外における交流活動を計画し、児童の効果的な活動のあり方を模索し、実践する。	1	3	○1学期は、ちろりん村でのいもほり(2年生)、秋津消防署の見学や消防車の写生(1、2、4年生)、秋津図書館見学(3年生)等を実施した。今後、近隣幼稚園の園児を展覧会に招待して、児童といっしょに鑑賞してもらう活動を計画している。また、オリンピック・パラリンピック教育の一環としてニュースポーツ体験や一流アスリートによる講演会も予定している。実践回数が少ないので、努力目標の数値は1となっている。	4	4	○2学期以降、幼稚園や保育園との交流(展覧会)、農家見学、ポールスター工場見学、スーパーマーケット見学、豆腐作り、納豆作り、社会福祉協議会と連携した活動等、様々な学年で地域の人材や施設を利用した学習を行うことができた。来年度も今年度の実践を生かし、様々な経験を通して、コミュニケーション能力や自己有用感を高められるように計画していく。		